

7 MDCT を用いた virtual endoscopy (仮想内視鏡表示) で狭窄病変を評価しえたクローン病の 3 症例

米山 靖・古川 浩一・横尾 健
 滝沢 一休・池田 晴夫・相場 恒男
 和栗 暢生・五十嵐健太郎・月岡 恵
 高橋 直也*・樋口 健史*・前田 春男*
 山崎 俊幸**・山本 睦夫**
 新潟市民病院消化器科
 同 放射線科*
 同 外科**

クローン病は、その疾患の特徴として、潰瘍形成から狭窄を来すことが多く、狭窄が高度な場合には内視鏡が通過しないこともしばしばある。MDCT を用いた大腸の volume rendering 画像および virtual endoscopy は、条件が整えば狭窄の評価に有用であり、なおかつ患者にとって低侵襲な検査法であり、今後の CT 装置や画像解析ソフトの更なる発達によっては、より詳細な消化管病変の画像表示が可能となる可能性を持つものと考えられる。

8 Narrow band imaging (NBI) を用いた下部消化管内視鏡観察の経験 — 最近の知見と展望を交えて —

米山 靖・古川 浩一・横尾 健
 滝沢 一休・池田 晴夫・相場 恒男
 和栗 暢生・五十嵐健太郎・月岡 恵
 新潟市民病院消化器科

NBI は間接的な pit pattern の観察に加えて間質部分の血管像を簡便に観察でき、腫瘍診断の一助となると考えられる。また平坦病変において非腫瘍部との境界を高いコントラストで描出でき、診断・治療に大きな威力を発揮すると思われる。更に潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の活動性の評価や、dysplasia ~ colitic cancer の発見などにも寄与する可能性があるものと考えられる。今後多くの症例を NBI 画像で観察し、病理学的所見等と対比させ検討することにより、病変の存在診断、良悪性の鑑別、深達度診断などに有用な武器になり

うるものとする。

9 ダブルバルーン小腸内視鏡が診断・治療に有用であった 2 例

相場 恒男・古川 浩一・横尾 健
 滝沢 一休・池田 晴夫・米山 靖
 和栗 暢生・五十嵐健太郎・月岡 恵
 中嶋 孝司*
 新潟市民病院消化器科
 新潟中央病院内科*

10 当院におけるダブルバルーン式小腸内視鏡検査の現状

中嶋 孝司・渡辺 一弘・山本 睦生*
 柴崎 浩一**
 新潟中央病院消化器科
 同 外科*
 日本歯科大学新潟校内科**